

# JVCケンウッド 決算説明資料

## 2019年3月期 第3四半期

2019年2月1日

株式会社JVCケンウッド

当社は2018年3月期の有価証券報告書から、従来の日本会計基準に替えて、国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたしました。

本資料の2019年3月期および2018年3月期の数値は、すべてIFRSとなっております。

# 事業内容

## メディアサービス分野 (MS)

### ■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル (旧プロダクツ)  
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、  
ホームオーディオ など

### ■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

## パブリックサービス分野 (PS)

### ■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、  
無線システム機器 など

### ■業務用システム事業

- 監視カメラ、業務用放送機器 など

### ■ヘルスケア領域

- 医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、  
ゲイズファインダー など

## その他 (2.4%)

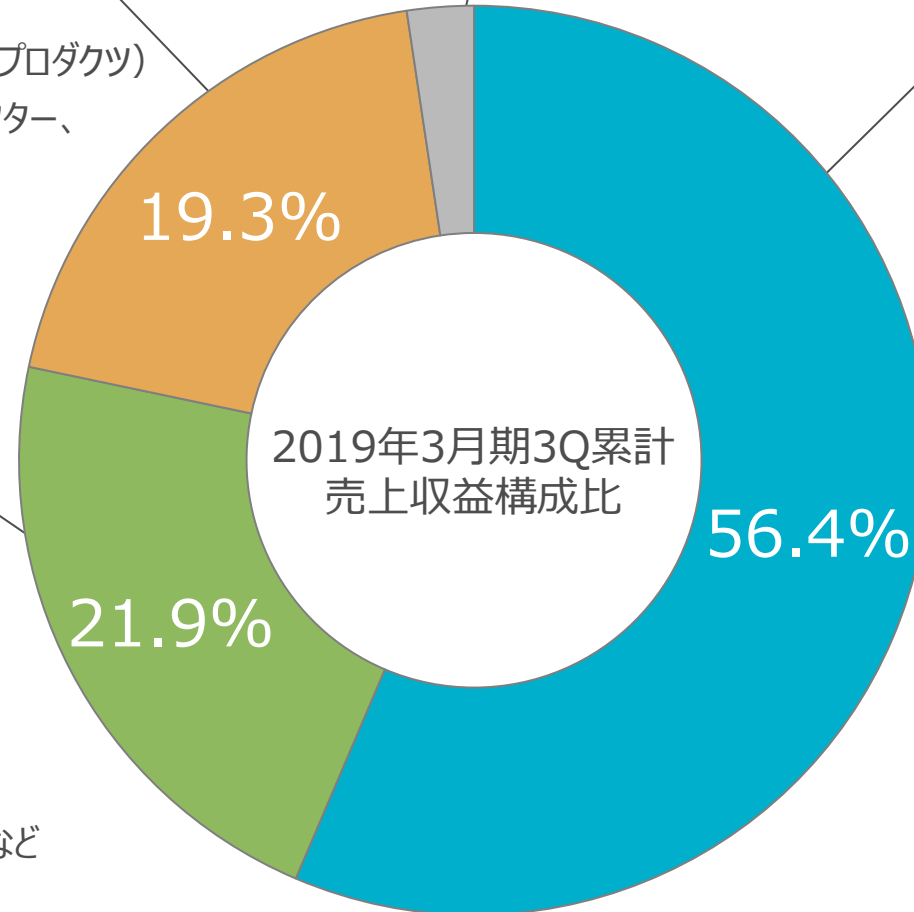
## オートモーティブ分野 (AM)

### ■アフターマーケット事業

- ・カーナビゲーション
- ・カーオーディオ
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー など

### ■OEM事業

- ・カーナビゲーション
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー
- ・車載用カメラ
- ・車載用CD/DVDメカ
- ・車載用光ピックアップ
- ・車載用スピーカー
- ・車載用アンテナ
- ・車載用アンプ
- ・デジタルコックピットシステム など



**1. 2019年3月期 第3四半期決算概況**

**2. 2019年3月期 業績予想**

**3. トピックス**

**1. 2019年3月期 第3四半期決算概況**

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

# 2019年3月期3Q決算 ハイライト

- 売上収益は、AM、PS、MSの3分野とも増収
- コア営業利益は、増収効果により3分野とも損益改善。営業利益も増加
- 税引前四半期利益は、営業利益の増加などにより増益
- 四半期純利益は、税引前四半期利益の増加などにより大幅増益

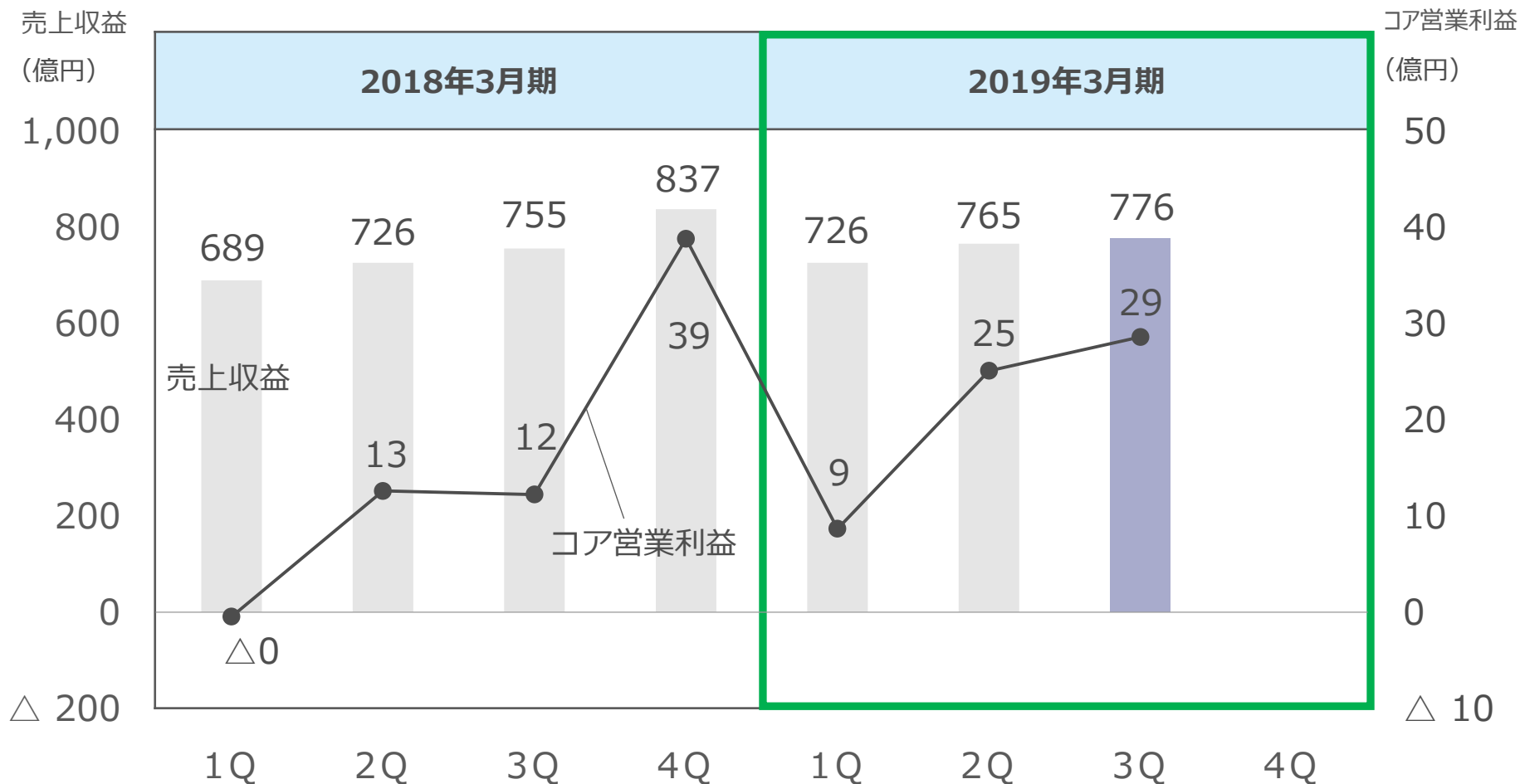
(億円)

	'18/3期3Q累計		'19/3期3Q累計		前期差
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上収益	2,170	100.0	2,267	100.0	+ 97
売上原価	1,597	73.6	1,642	72.4	+ 45
売上総利益	573	26.4	625	27.6	+ 52
コア営業利益 <sup>※</sup>	24	1.1	62	2.7	+ 38
営業利益	47	2.2	64	2.8	+ 16
税引前四半期利益	40	1.8	58	2.6	+ 18
親会社の所有者に帰属する四半期利益	15	0.7	35	1.6	+ 20

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

損益為替レート	1米ドル	'18/3期					'19/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
	1ユーロ	111円	111円	113円	108円	111円	109円	111円	113円	-	-
	122円	130円	133円	133円	130円	130円	130円	129円	-	-	

# 2019年3月期3Q決算（四半期別）実績推移



損益為替レート	1米ドル 1ユーロ	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		111円	111円	113円	108円	109円	111円	113円	-
		122円	130円	133円	133円	130円	130円	129円	-

(億円)

	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,415	1,592	1,491	-
コア営業利益	12	51	34	-

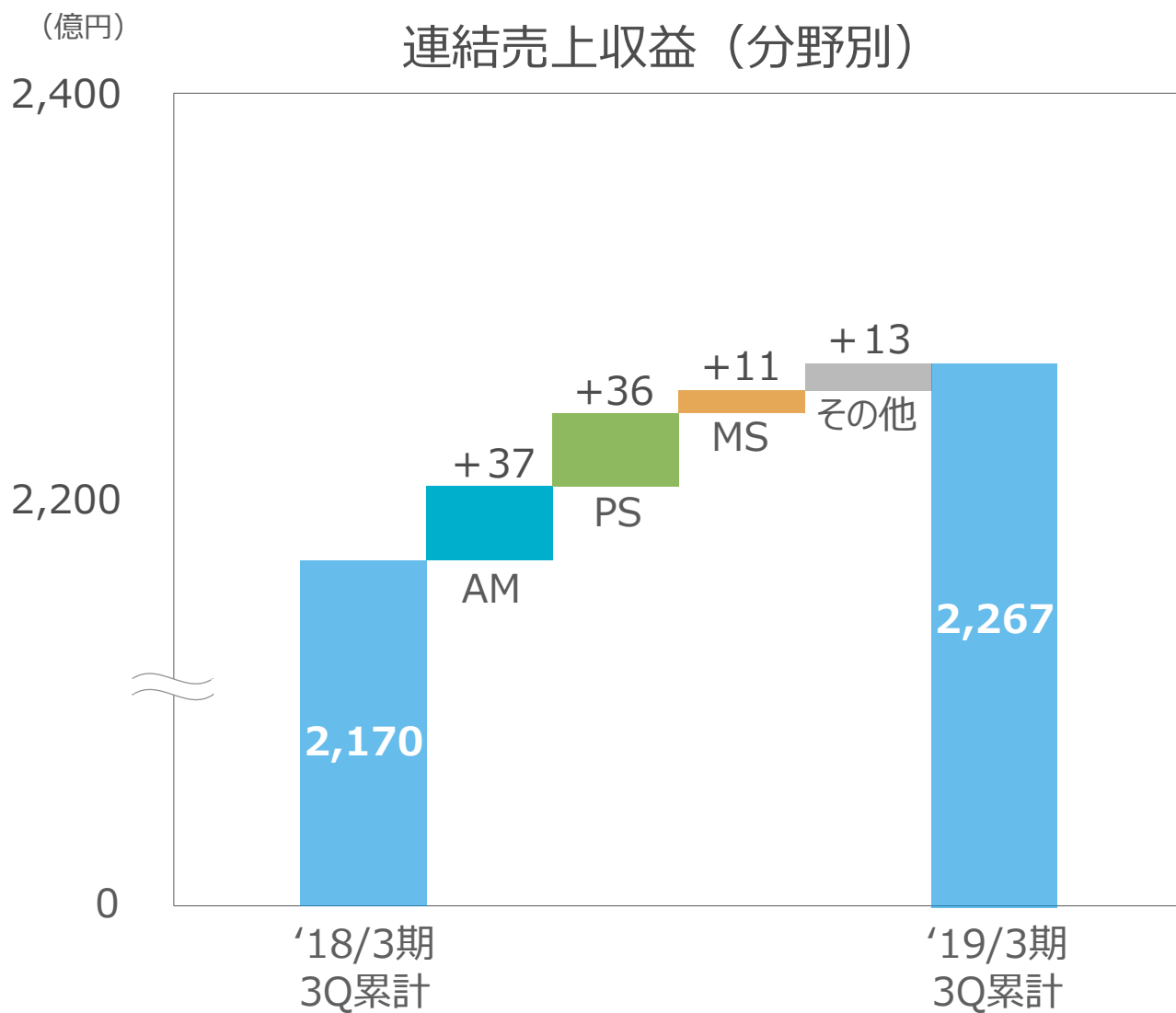
# 2019年3月期3Q決算 分野別の状況

(億円)

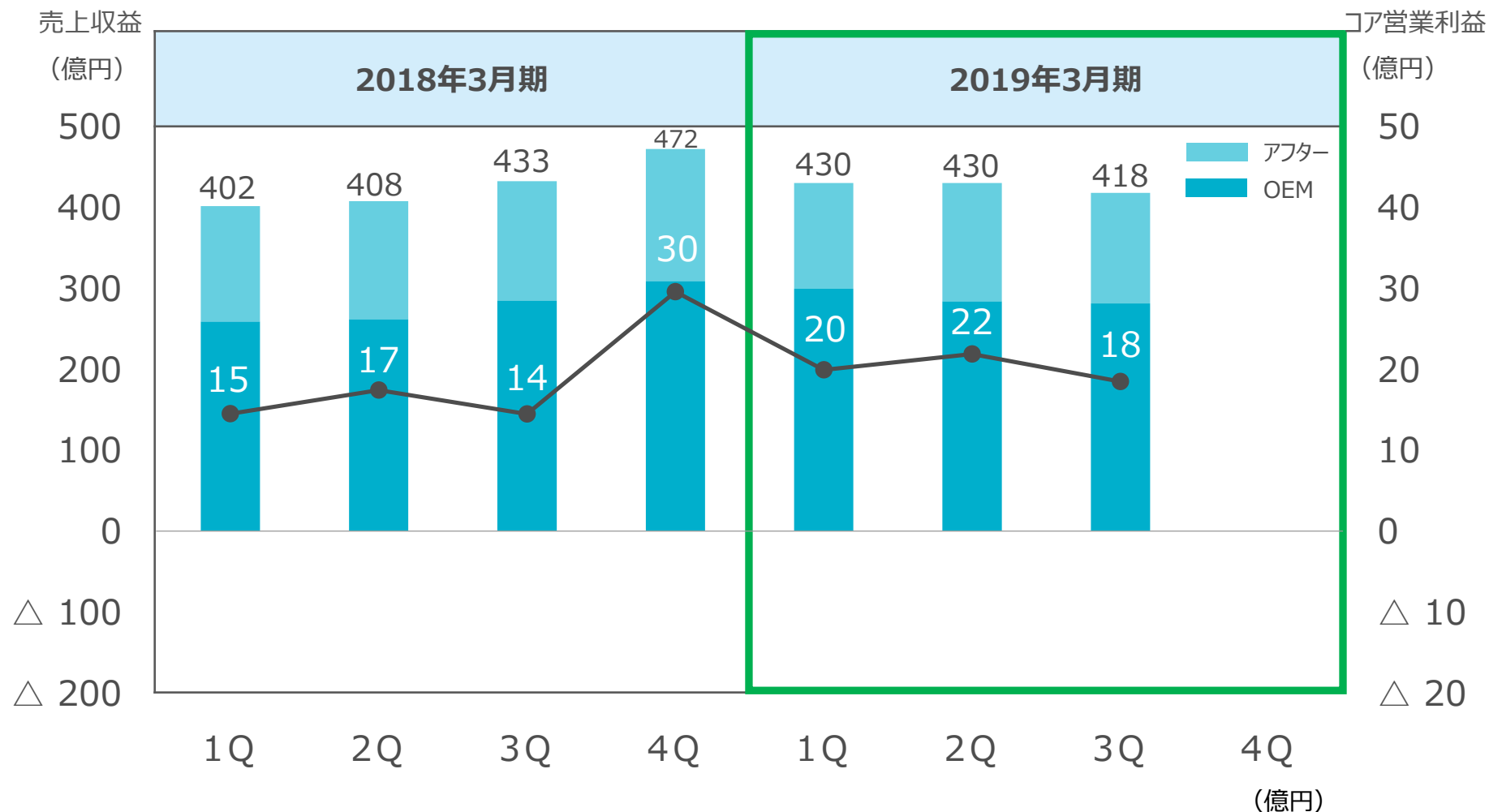
		'18/3期 3Q累計	'19/3期 3Q累計	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上収益	1,242	1,279	+37	+2.9%	* OEMの増収により、分野全体でも増収 * OEMの増益により、分野全体でも増益
	コア営業利益	46	60	+14	+30.4%	
パブリックサービス	売上収益	460	496	+36	+7.8%	* 無線システムの販売増、Rein Medical社の子会社化などにより、分野全体で増収 * ヘルスケアの先行投資があったものの、無線システムの黒字化により、分野全体では損益改善
	コア営業利益	△ 21	△ 11	+10	—	
メディアサービス	売上収益	427	438	+11	+2.6%	* メディアが減収もエンタテインメントの販売増により、分野全体では増収 * メディアの原価改善などによる黒字転換、エンタテインメントの構造改革効果発現などにより、分野全体で増益
	コア営業利益	0	15	+15	—	
その他	売上収益	40	54	+13	+32.5%	—
	コア営業利益	△ 1	△ 1	△ 0	—	
合計	売上収益	2,170	2,267	+97	+4.5%	—
	コア営業利益	24	62	+38	+156.1%	



# 2019年3月期3Q決算 連結売上収益（分野別）

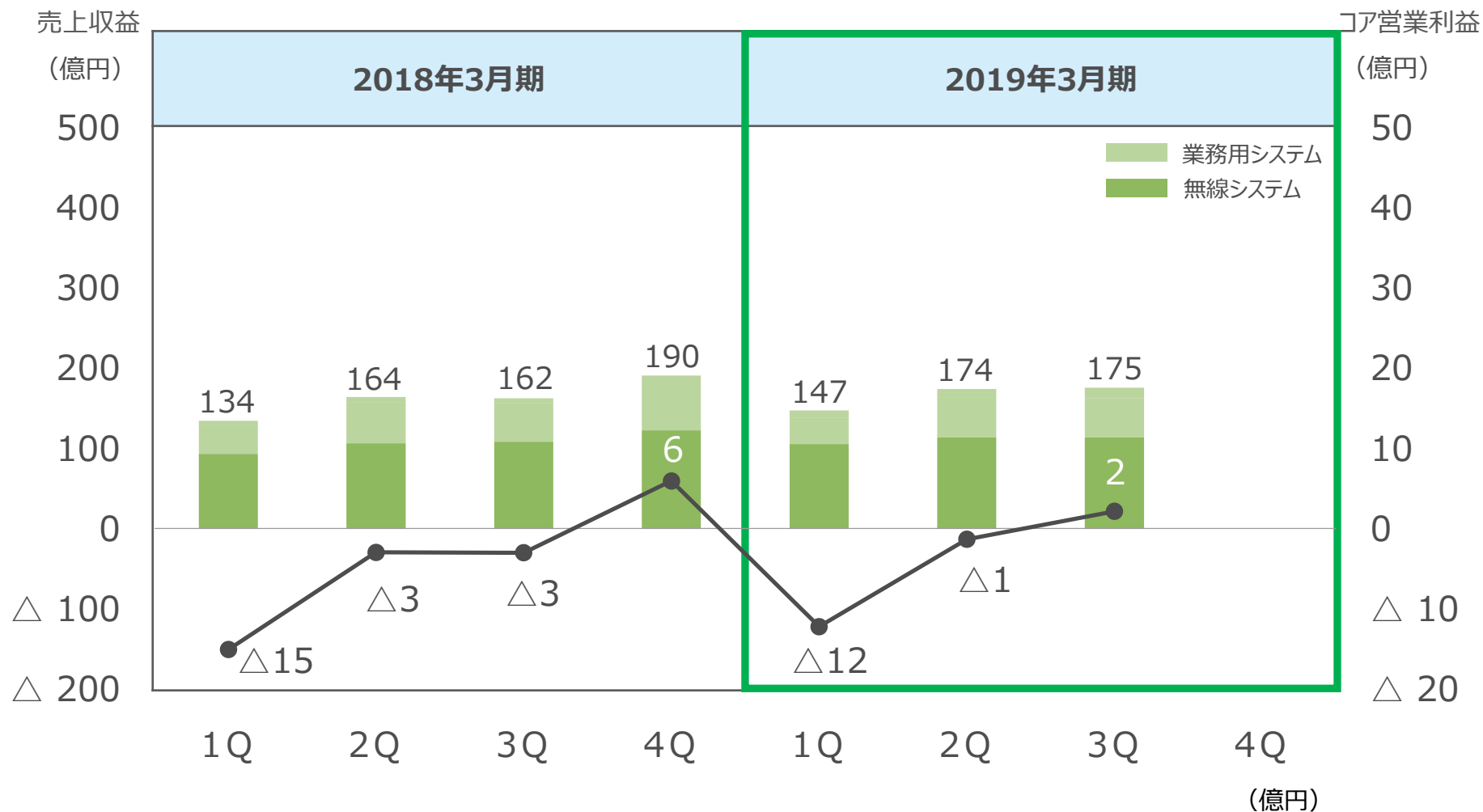


# 2019年3月期3Q決算 AM分野 四半期別実績推移



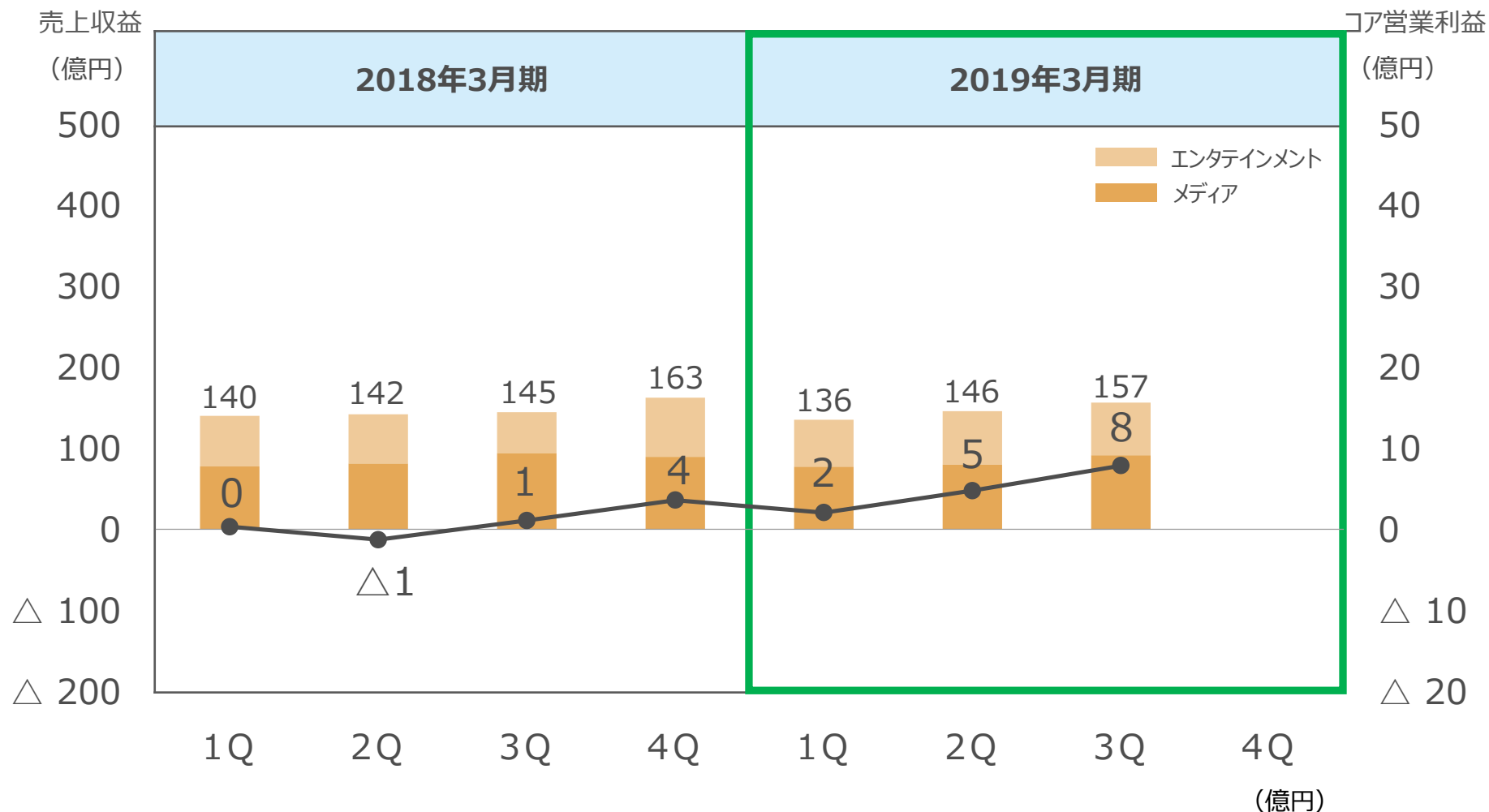
	上期	下期	上期	下期
売上収益	810	905	861	—
コア営業利益	32	44	42	—

# 2019年3月期3Q決算 PS分野 四半期別実績推移



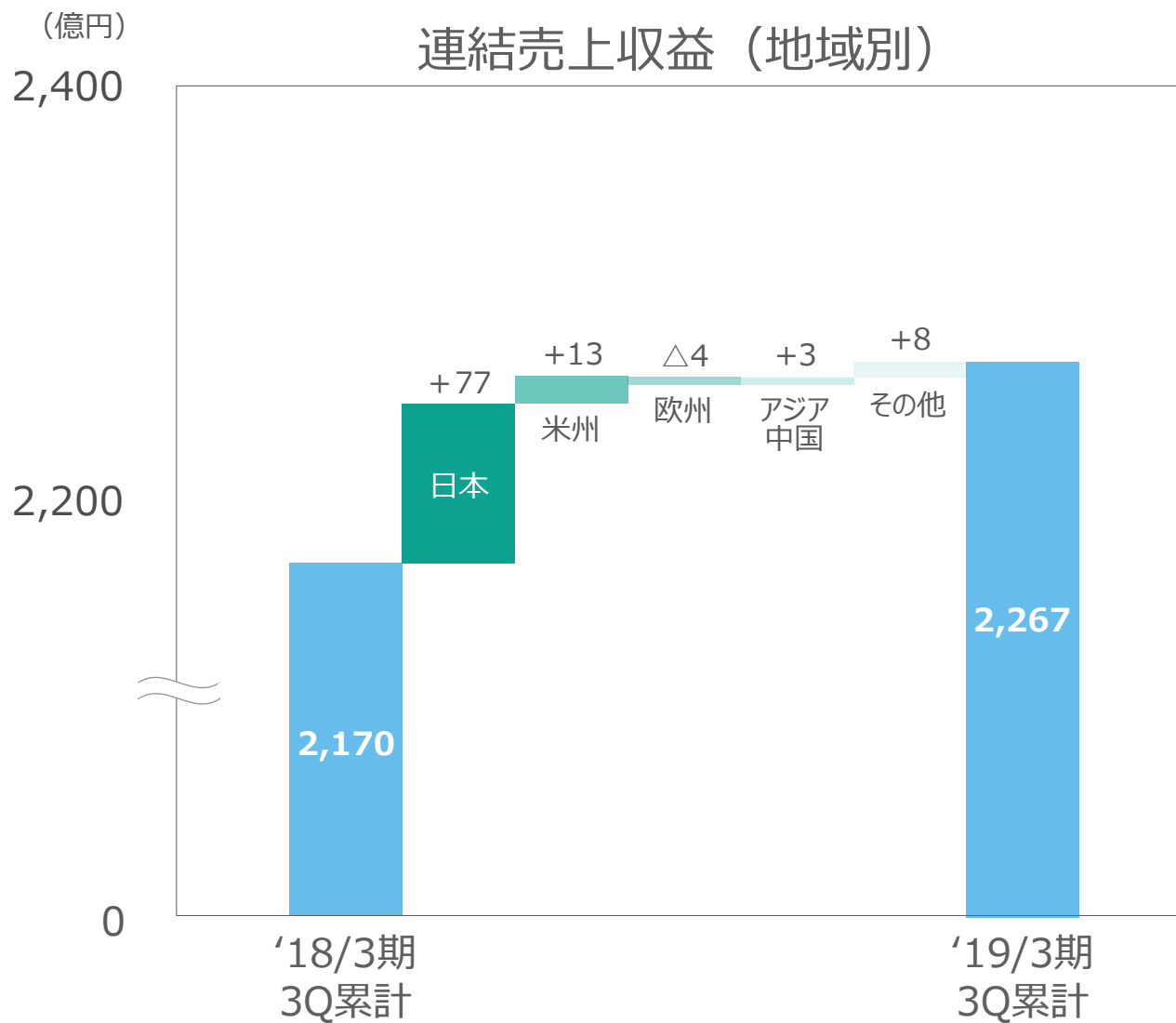
	上期	下期	上期	下期
売上収益	298	353	321	—
コア営業利益	△ 18	3	△ 14	—

# 2019年3月期3Q決算 MS分野 四半期別実績推移

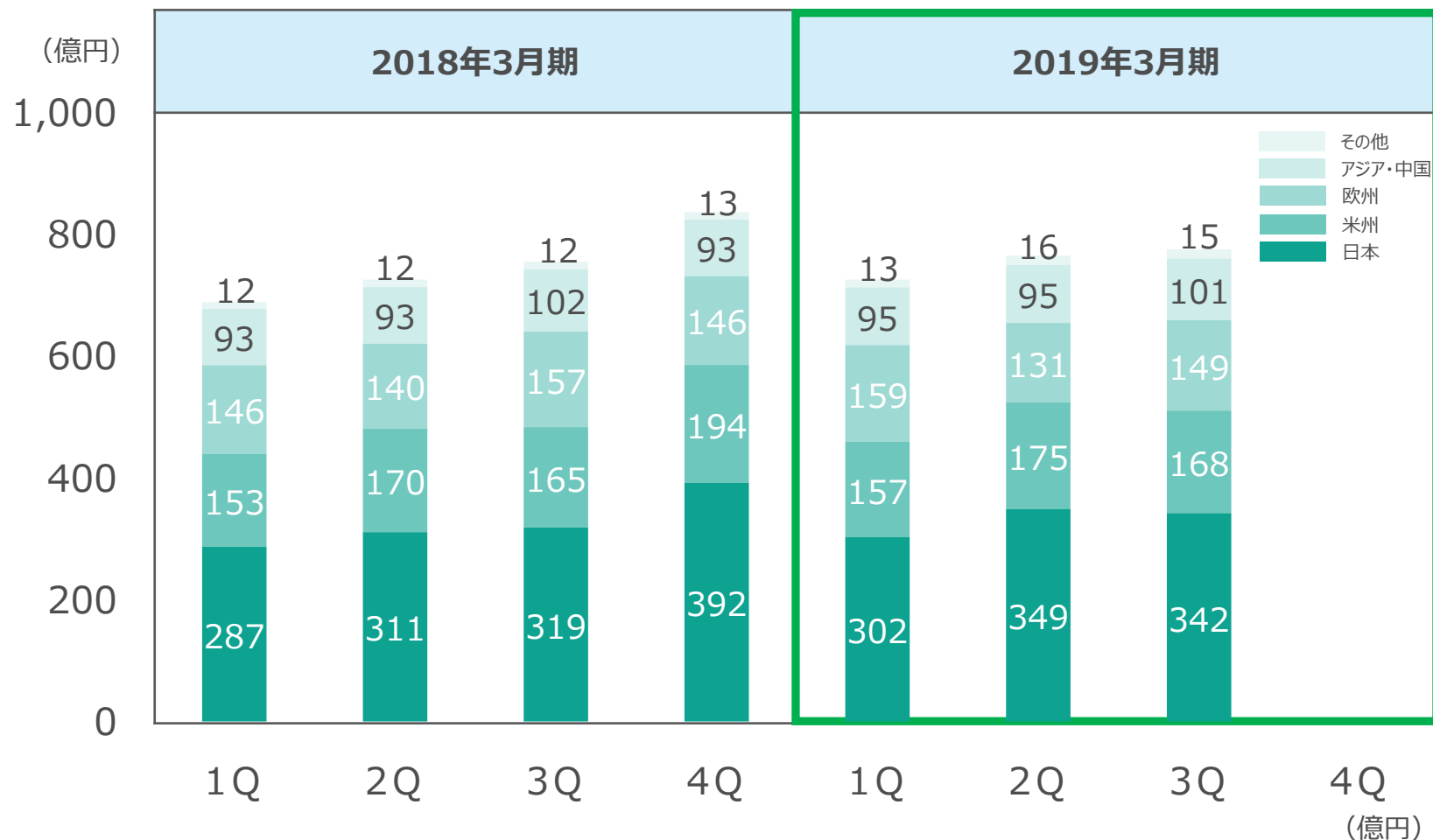


	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	307	282	—
コア営業利益	△ 1	5	7	—

# 2019年3月期3Q決算 連結売上収益（地域別）

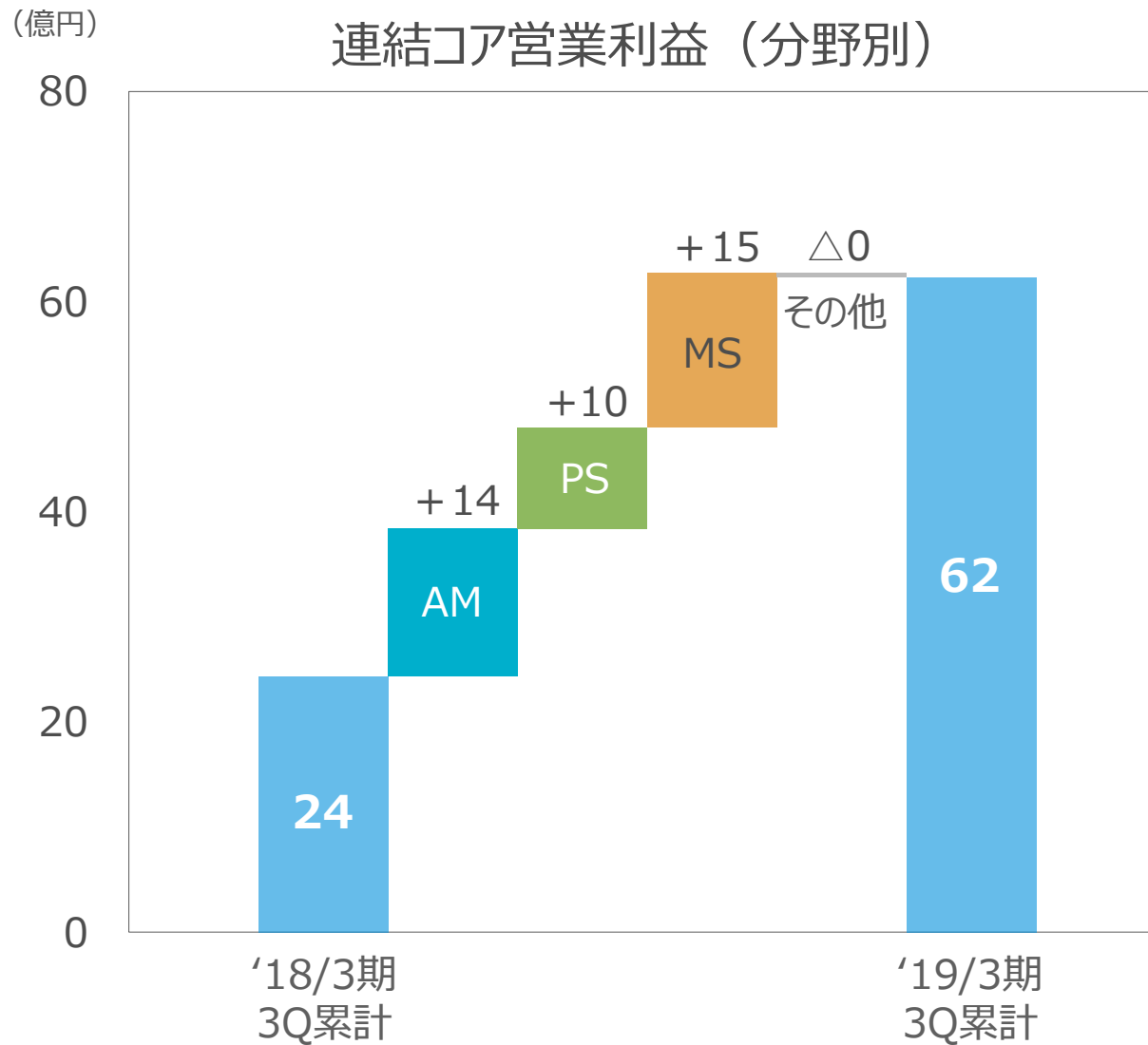


# 2019年3月期3Q決算 地域別連結売上収益推移



	上期	下期	上期	下期
日本	598	711	651	—
米州	323	359	332	—
欧州	285	303	290	—
アジア・中国	186	195	190	—
その他	24	25	28	—

# 2019年3月期3Q決算 連結コア営業利益（分野別）



# 2019年3月期3Q決算 四半期連結損益（要約）

- 営業利益は資産売却益の減少などがあったものの増益
- 営業利益の増加などにより、税引前四半期利益は増益
- 税引前四半期利益の増加などにより、親会社の所有者に帰属する四半期利益は増益

(億円)

	'18/3期3Q累計	'19/3期3Q累計	増減
コア営業利益 <sup>※</sup>	24.3	62.3	+ 38.0
その他の収益・費用、為替差損益等	22.8	1.3	△ 21.5
営業利益	47.1	63.6	+ 16.5
金融収支他	△ 7.2	△ 5.7	+ 1.5
税引前四半期利益	39.9	57.9	+ 18.0
法人所得税費用	18.0	18.8	+ 0.8
非支配持分	6.8	3.7	△ 3.0
親会社の所有者に帰属する四半期利益	15.1	35.4	+ 20.3

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの



# 2019年3月期3Q決算 財政状態サマリー

(億円)

	'18/3期末	'19/3期3Q	増減
資産合計	2,399	2,505	+ 106
負債合計	1,861	1,852	△ 9
資本合計	538	653	+ 115
有利子負債	678	707	+ 29
ネットデット	307	322	+ 16
ネットD/Eレシオ (倍)	0.61	0.52	△ 0.09
親会社の所有者に帰属する持分	506	616	+ 110
親会社所有者帰属持分比率 (%)	21.1	24.6	+ 3.5

# 2019年3月期3Q決算 キャッシュ・フロー サマリー

- 税引前四半期利益が増益となったことなどから、営業キャッシュ・フローは収入が増加
- 無形固定資産の取得による支出の増加、Rein Medical社の子会社化、Tait社への出資などから、投資キャッシュ・フローは支出が増加
- 新株予約権の行使による収入があったことなどから、財務キャッシュ・フローは収入が増加

(億円)

	'18/3期3Q累計	'19/3期3Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	132	141	+ 9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 88	△ 206	△ 118
フリー・キャッシュ・フロー	44	△ 65	△ 109
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	79	+ 147
合計	△ 24	14	+ 38

※ フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 2019年3月期 第3四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

# 2019年3月期 通期業績予想

- 3Q累計期間は、全分野ともに好調に推移し、期初予想を上回る実績
- 4Qは、PS及びMS分野で新商品の発売などによる改善が引き続き見込まれるものの、中国の景気減速、Brexitによる欧州市場の不透明感といったリスクが見込まれることから、現時点では通期業績予想の修正は行わない

(億円)

	'18/3期 実績	'19/3期 予想	増減
売上収益	3,007	3,100	+93
営業利益	69	71	+2
税引前利益	59	60	+1
親会社の所有者に帰属する当期利益	24	27	+3

		'18/3期実績	'19/3期想定
損益為替レート	1米ドル	111 円	107円
	1ユーロ	130 円	131円

1. 2019年3月期 第3四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

# オートモーティブ分野

## アフターマーケット

- 3Qから発売を開始した前後撮影に対応のドライブレコーダーが大ヒット、早くも市場で確固たる地位を獲得
- 新次元の高画質・高音質・高速レスポンスを実現した“彩速ナビ”2019年モデルやドライブレコーダーのスタンダードモデルを1月に発表



前方だけでなく後方の同時録画に対応した  
2カメラドライブレコーダー

## OEM

- 国内自動車メーカーの海外モデル向けディスプレイオーディオ／カーオーディオの出荷を開始
- 国内生産拠点（長野）が自動車産業における品質マネジメントシステムの国際規格 IATF16949 認証を取得



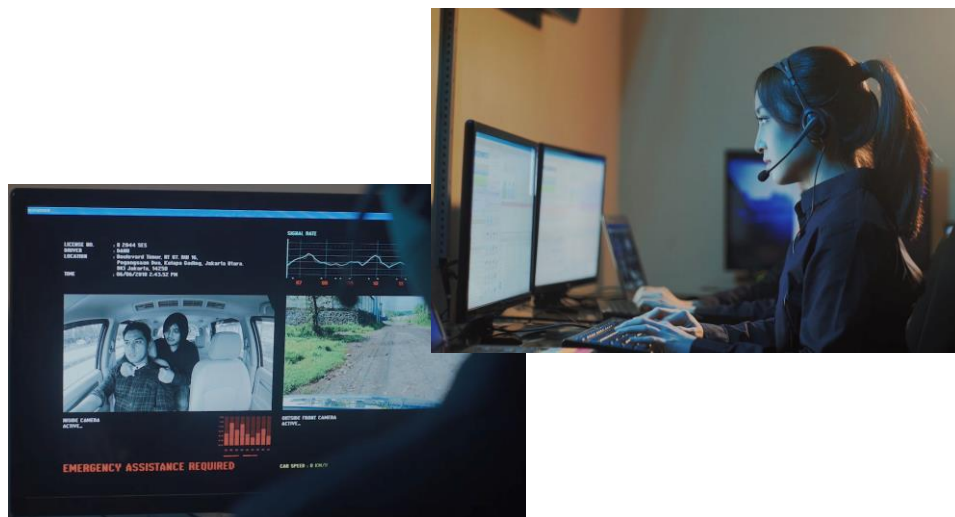
新次元の高画質を実現した“彩速ナビ”2019年モデルを  
1月～3月にかけて順次発売

# テレマティクスソリューション事業の拡大

- 三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の「見守るクルマの保険」に採用された通信型ドライブレコーダーを1月から出荷開始
- 当社IoT配車システムとDeNA社配車アプリを連携した次世代タクシー配車サービスの提供を目指して12月から両社で検討開始
- 東南アジア配車サービス最大手Grab社と通信型ドライブレコーダーによるセキュリティシステムの実証実験を3月に終了予定
- トラック運送業界など商用テレマティクス分野の事業拡大に向けて、デジタコと連携する通信型ドライブレコーダーを春から出荷予定



三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保に採用された通信型ドライブレコーダー



Grab社と実証実験を行っているドライバー向けセキュリティシステム

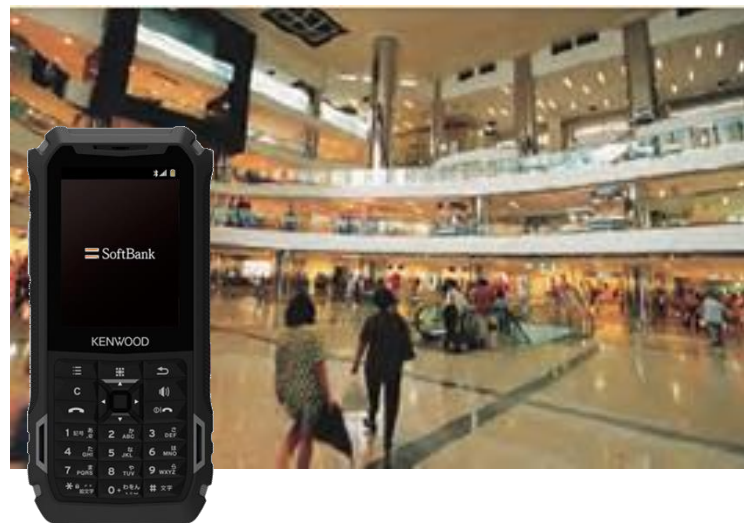
# パブリックサービス分野

## 無線システム

- 米国ジョージア州ファイエット郡からP25規格に対応した業務用デジタル無線システムの大型案件を受注
- 米国アイオワ州から米国無線システム子会社Zetronが次世代911コールセンターシステムを落札
- ニュージーランド業務用無線通信システム事業会社Tait社への出資が完了、業務提携を加速して調達や開発も含めた協業を推進
- LTEに対応し、全天候型のタフなハンディ型業務用IP無線機「SoftBank 801KW」をソフトバンクに供給開始



P25規格デジタル無線の大型案件を受注



ソフトバンク向けIP無線機



# パブリックサービス分野

## 業務用システム

- 高音質 & 最新機能でスムーズな議事運営と議会機能強化を実現する“フルデジタル会議システム”を全国自治体に納入
- 強固なセキュリティが求められるデータセンターなどの公共インフラへ高画質カメラを採用した遠隔監視システムを納入



フルデジタル会議システムを全国自治体に  
11件納入、6件受注

## ヘルスケア

- 視線計測装置“Gazefinder”を自閉スペクトラム症の診断補助装置として治験実施を目指した取り組みを、また、認知症の早期スクリーニングへの活用に向け、関係機関と研究開発を推進
- 「HOSPEX Japan」や「RSNA（北米放射線学術会議）」に出展し、医用画像モニターやOR映像ソリューションの受注活動を強化



視線計測装置“Gazefinder”

# メディアサービス分野

## メディア（ライフスタイル）

- Bluetooth®対応ヘッドホンやビクターブランドのWOODシリーズ発売10周年記念フラッグシップモデルが好調に推移
- 首にかけるだけの新リスニングスタイルでスマートフォンなどの音楽をワイヤレスで楽しめるウェアラブルスピーカーを発売



耳をふさかず手軽に音楽を楽しむ  
ウェアラブルワイヤレススピーカー“NAGARAKU”

## メディア（ソリューション）

- 新コンセプト“CONNECTED CAM™”を軸としたIP映像ソリューションビジネスの拡大に向けてStreamStar社へ出資
- 世界初となる8K映像表示に対応した「DLA-V9R」など各種プロジェクターがホームシアターグランプリで総合金賞を受賞



音元出版主催のホームシアターグランプリで  
各種モデルが高評価を得たプロジェクター

# メディアサービス分野

## エンタテインメント

### 主な3Q貢献作品

- 星野源 アルバム「POP VIRUS」
- 初音ミク DVD/BD「マジカルミライ2018」
- BUCK-TICK  
DVD/BD「THE DAY IN QUESTION 2017」
- 降谷建志 アルバム「THE PENDULUM」
- レキシ アルバム「ムキシ」

### 主な4Q期待作品

- 桑田佳祐&The Pin Boys  
シングル「レッツゴーボウリング」
- 家入レオ シングル「この世界で」
- Nulbarich アルバム「Blank Envelope」
- 大原櫻子  
アルバム「CAM ON ! -5th Anniversary Best-」
- 斉藤和義 シングル「アレ」



# メディアサービス分野

## エンタテインメント

- 今回で6回目となるロックフェスティバル「ビクターロック祭り」を3月に幕張メッセで開催、豪華アーティストがラインアップ
- ビクタースタジオが「日本プロ音楽録音賞」で最優秀作品賞を受賞、24年連続受賞の快挙
- ビクターエンタテインメント所属の辰巳ゆうとが第60回「輝く！日本レコード大賞」で最優秀新人賞を受賞



# ブランド戦略

- 世界最大級のエレクトロニクス・ショー「CES 2019」でJVC、KENWOOD 両ブランドの新商品・ソリューションなどを訴求
- 「TOKYO AUTO SALON 2019」に出展、「彩速ナビ」2019年モデルやドライブレコーダーのラインアップを訴求
- 2018 FIA 世界ツーリングカーカップの日本ラウンドにイベント・プレゼンティング・パートナー（冠スポンサー）として協賛
- 2月2日に開催されるフライングドッグ10周年記念LIVEイベント「犬フェス！」に協賛



# JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。